仏様の ミナニ相

仏様には32の特徴があります。
仏様のやさしさを少しづつご紹介です。

亀はひなたぼっこ中、カルシウムを必死に作っているそうです。生きる事は大変です。若住耳ム

仏様に油断なし！

⑦足趺高満相（そくふこうまんそう）

仏様の足の甲は、亀の背のように高く盛り上がっています。

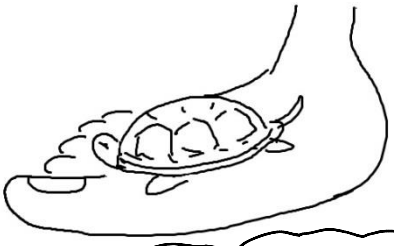
亀・・といわれて思い浮かぶのが、

♪もしもし　かめよ　かめさんよ　せかいのうちで　おまえほど　あゆみの　のろい　ものはない　どうしてそんなに　のろいのか

亀さんから見ればほっとけという話かもしれません。亀と言うとのろまの代表のように例えられることが多いですが、「うさぎとかめ」のはなしにあるように、堅実さと勤勉さの象徴としても描かれます。

古代インドの人々は、この大地は三頭の大きな象に支えられていて、その象を一頭の大亀が支えていると想像しました。亀は安定の象徴でもあります。

しかも、柔軟であるとありますから、柔らかさと強さと堅固さを兼ねているのが仏様の足です。



鹿のように軽やかに…

⑧伊泥延膊相（いでいえんせんそう）

伊泥延（いでいえん）とは鹿の一種です。

仏様の腕やふくらはぎが、あの山野をかける鹿のようだと言われます。

鹿は時に、馬と対比して言われます。

平家物語では、一の谷において源義経（みなもとのよしつね）が鹿が崖を駆け下りるのを見て、「鹿も四本足、馬も四本足。下りれぬはずがない」と、奇襲を決断します。

三国志においても、幼少期の諸葛孔明（しょかつこうめい）が、曹操（そうそう）に同じような助言をする場面が見受けられます。鹿の方が険しい道のりには適しているようです。

「あなたがどんな苦難の道にいても、暗闇のどん底にいても、この足ですぐに駆けつける」

伊泥延膊相（いでいえんせんそう）はこの覚悟が現れた相です。